

会議録

令和8年6月17日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会令和8年度第1回定例会
開催日時	令和8年5月20日(水)午後6時30分から午後9時30分まで
開催場所	柳沢公民館第一会議室
出席者	委員：小須田厚子(会長)、松本静(副会長)、澤井稔、小林資郷、小池教之、渡邊耕造、下坂小百合、亀倉康悦、花房敦子、ギログリー江美、鈴木明美、坂内夏子、荒井容子 事務局：近藤館長、市川事業係長(柳沢)、岡本分館長(芝久保)、菅野分館長(谷戸)、一之瀬分館長(保谷駅前)、山本事業係主査
欠席者	小林大介、山本分館長(田無)
議題	1 審議事項 (1)令和7年度第9回定例会会議録(案)について(資料1) (2)令和7年度第10回定例会会議録(案)について(資料2) 2 主催事業について (1)令和7年度公民館主催事業報告について(資料3) (2)令和8年度公民館主催事業計画について(資料4) (3)令和7年度第2回利用者懇談会報告について(資料5) (4)令和8年度公民館「まちなか先生(学校出前講座)」について(資料6) 3 報告事項 (1)行政報告 (2)公民館だより編集室会議報告 (3)東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 (4)東京都公民館連絡協議会定期総会報告 4 事務連絡及び情報交換 (1)令和7年度公民館事業評価に当たって (2)その他 (3)令和8年度第2回定例会について
資料	【配付資料】 資料1 令和7年度第9回定例会会議録(案) 資料2 令和7年度第10回定例会会議録(案) 資料3 令和7年度公民館主催事業報告書 資料4 令和8年度公民館主催事業計画書 資料5 令和7年度第2回利用者懇談会報告 資料6 令和8年度公民館「まちなか先生(学校出前講座)」実施一覧
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input checked="" type="checkbox"/> あり(3名) <input type="checkbox"/> なし
会議内容	
<p>1 審議事項</p> <p>(1) 令和7年度第9回定例会会議録(案)について(資料1) ●令和7年度第9回定例会会議録(案)について、委員から8ページ下から6行目の「暑い大会」ではなく「熱い大会」との指摘があり、事務局において修正することで承認</p> <p>(2) 令和7年度第10回定例会会議録(案)について(資料2) ●令和7年度第10回定例会会議録(案)について承認</p>	

2 主催事業について

(1) 令和7年度公民館主催事業報告について（資料3）

○事業係長

事前送付した令和7年度公民館主催事業報告書に関して委員からの事前質問に回答

(ア) あめんぼ青年教室（障害者学級）（田無）活動の青年スタッフについて説明

あめんぼ青年教室は、第2日曜日（7回）も含む、年間で31回実施している。また、青年スタッフは、あめんぼ青年教室の学級生の中で立候補したメンバー（毎年16人程度）で、活動内容や当日の役割分担などを話し合い、学級活動を楽しみながら当日の活動がスムーズに進むようにスタッフ的な役割も担うメンバーのことである。

(イ) ギャラリー田無公民館（田無）と、曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会（田無）の事業目的達成のための課題・取り組みで、地域の学習活動への参加を促したとあったが、住民側の価値観を消した誘導的な表現を修正。

(ウ) SDGs ロビーフェスタ田無（田無）の参加者の評価欄の「家庭環境がうまくいかない状況」とある記述について、父親が子育てに関わり、家庭の問題が全部改善するものではないという意見があったことについて説明。

○A委員

各館からピックアップした公民館主催事業報告について説明をお願いします。

○分館長（谷戸）

中高生が企画する小学生向け防災講座「めざせ！防災マスター」（谷戸）は、準備会を25回行い、労力と時間を要した講座であった。発表では子どもたちの頼もしい姿や参加者の微笑ましい状況が見られ、本当に子どもたちって素晴らしいなという感想をもった。前回、館長からも発言したとおり、幅広い世代を対象とし、中高生とも関わりを持ちながら、新たな展開を目指して、今年度も実施する。

○分館長（保谷駅前）

趣味講座6館ライブツアー（保谷駅前）は、2023年・2024年趣味講座「保谷駅前バンドをやろう」で、出会った仲間がバンドを組んで音楽でつながりを広げ、次のステップとして、バンドコミュニティの場を市内6つの公民館に広げ、今年度は新たなメンバー40人・26グループの市民バンドが出来上がった。今回、音楽好きの40人の想いの詰まった推し曲を軸にバンドを組み、練習と交流を重ねて6館ライブツアーとして開催した。立ち見が出るほどの盛況だった。

○B委員

田無公民館で6館ライブツアーの演奏を見に行った。ライブや軽音は若者のものと思っていたが、2歳ぐらいの子から80歳ぐらいの方まで世代を超えて盛り上がっていた。音楽の西東京を体験した。本当に素晴らしかった。

○C委員

趣味講座6館ライブツアー（保谷駅前）のメンバーに、あつまれ！みんなのけいおん講座（保谷駅前）の中高生の参加は時間的に難しかったのか。今後、年配者と10代と一緒にライブするといった展開も考えられる。また、各館の協力体制はどうだったのか。

○分館長（保谷駅前）

担当職員が下見に行き、各館の職員も必ず立ち合った。公民館だよりも掲載し、全公民館で行うことをアナウンスした。また、音を制限する必要がある場合には、ドラム等の演奏を控え、アコースティックギターなどをメインにした。

○C委員

6館が独自に地域性を考えたというより、市全体を意識した企画であり、今後、音楽だけでなく各館の事業が色々なテーマで協力できると良いと感じた。

○D委員

趣味講座6館ライブツアー（保谷駅前）の事前打合日を土日にするなど調整すれば、中高校生が何回か参加できるのではないか。

○E委員

谷戸公民館で6館ライブツアーの演奏を聴いた。色々な方と知り合えたことや各公民館に

よって制限もある中で工夫を凝らし、繋がりを強くすることもいいことだと思った。

○F委員

平和を考える講座自分たちが暮らすまちの戦跡を探る～戦跡を巡り、平和について考える～（芝久保）は、参加人数は多くないが内容がとても充実している。平和講座は、戦争批判や歴史を取り組む内容で、小学生の感想もあり、公民館「まちなか先生（学校出前講座）」の平和講座とも繋がると感じた。

(2) 令和8年度公民館主催事業計画について（資料4）

○事業係長

事前送付した令和8年度公民館主催事業計画書に関して委員からの事前質問に回答

①子どもを取り巻く環境について考える講座 SNS との関係性を考える（保育あり）（柳沢）について、対象はどのあたりにするのか。

回答：小学校3年生から中学生までを対象としたい。

②【共催事業】サークル公開講座子ども対象・大人対象陶芸体験教室湯のみをつくろう（柳沢）の手工芸サークルは、どういう位置付けで関わりがあるのか。

回答：陶芸講座を再開するにあたり、一昨年までスタッフで関わっていた手工芸サークルメンバーの方の申し出があった。

③障害者学級あめんぼ青年教室（田無）の参加者実費が2,000円/年となっているが、払えない人は参加できないのか。申し込みは、1月号の公民館だよりで募集とあるが、今年度は遅くしたのか。

回答：募集時期も方法も、例年通り。くるみ学級（障害者学級）（柳沢）と同時掲載で、あめんぼ青年教室（田無）は年間で全31回、例年通り実施する。参加者の飲食にかかる費用・食材費・材料費などは、参加者の実費負担を原則としている。

④ギャラリー田無公民館（田無）は、公民館沿いの道路から見えるガラススペースに活動の展示をしているが、サークルが行っていることを地域の人に伝えたいのはわかる。それが地域社会の一員として、地域づくりに、関わる機会を提供する事業だとは思えない。

回答：ギャラリー田無公民館（田無）のほか、曜日別活動サークル1日ロビー見学体験会（田無）やサークル見学月間（田無）の方にも、事業目的として公民館で地域づくりに繋がるとか、コミュニティを作るためとあったので、表現を改めている。地域での学習活動への参加を促すという表現が、住民に対して誘導的で、公民館がそこまで誘導する形でやるものではないとの意見をいただいたので、サークルの活動情報を提供することによって、公民館で活動している人たちの様々な学習・文化活動を知ってもらい、見学や体験などサークルに参加しやすくなる機会を提供するという表現に改めた。

○F委員

地域コミュニティの形成を公民館側から引っ張っていくことは違う。

○B委員

柳沢公民館はロビーが広く、色々な展示物を並べ皆さんに見てもらえるが、ギャラリー田無公民館（田無）は、公民館沿いの道路から見えるガラススペースに活動の展示をしている。田無公民館は建物の構造的にロビーだけで多くの色々な展示は難しい。

○事業係長

続けて、令和8年度公民館主催事業計画書に関して委員からの事前質問と意見、修正点等について説明

質問①：子育て中の人のための講座1 バランスのよい時短料理と、身軽な「カラダ」づくり～親子が元気に楽しく過ごすヒントを仲間と一緒に見つけよう～（保育あり）（田無）は、12回の長期講座に孫育て世代は参加するのか、孫育て世代が参加する意味があるのだろうか。

回答：修正版の計画書備考欄に世代間交流の場ともなるよう、孫育て中の人や食に関心のある人などで希望があれば参加も可能とする旨、追記した。

質問②：夏の親子体験講座 ウクライナの工芸エッグアート「ピサンキ」を作ってみよう

(田無)について、なぜウクライナなのか。

回答：物作りは自由な発想と個性の尊重に繋がり、一人ひとりが輝く瞬間でもある。また異文化に触れることは、日本との違いや共通点などに気づき、外国文化にも興味を持つきっかけとなる。本講座は、ウクライナに伝わるエッグアートの技術や歴史について親子で学ぶ機会であるという部分を加えている。

質問③：夏の親子体験講座 ウクライナの工芸エッグアート「ピサンキ」を作ってみよう
(田無)について、中学生サポーターの協力は得るが、事業目的として多世代交流の場を提供するというのはおかしいのでは。

回答：講座の主な目的ではなく、田無公民館で活動中のサークルメンバーや、SDGs の中学生サポーターの協力を得ることで、世代交流の場になる可能性もあり、そのような記述に修正している。

質問④：SDGs ロビーフェスタ田無 (田無)について、ゴール 17 の平和についてのテーマを入れないのか。

回答：変更を加え、学習内容の中で、①から⑥までテーマごとのテーブルを設け、⑥番に「平和について考える」を追加した。

○C委員

子育て中の人のための講座では、孫育てとして年配の人を想定すれば、興味を持つはず。ただ、多世代交流を意識するなら、例えば自分の子どもを親に見てもらうことで、どんな問題が起きるのか等をテーマにすればいいと思う。また、夏の親子体験講座 ウクライナの工芸エッグアート「ピサンキ」を作ってみよう (田無)について、ウクライナ戦争が起きた時に、様々な切り口で考える平和講座が実施されたが、日本に残された方の思いを繋ぐ意味合いが、その講座にあったと思う。それが意識されてない位置付けだったので疑問を感じた。ウクライナの厳しさを心に留めた事業として、新しく参加した人にも伝えていくような意味合いを込めた方がよいのではないかと。

○事業係長

サークルは、ウクライナ侵攻が始まった頃に立ち上がった。そうした思いはあるはずだが、この講座の中でどこまで触れられるか確認し、ご意見を田無公民館に伝える。

○A委員

続いて、各館からピックアップした公民館主催事業計画を発言していただきたい。

○分館長 (谷戸)

教養講座 (青年向け・保育あり) 木村草太さんと憲法を語ろう (谷戸) について、若い人たちの中でディスカッションし、憲法を通して社会を見つめたい。若い人に是非参加をしてもらいたいことから、15歳から30歳代まで (青年) を対象とし保育ありとする。8月29日 (土) に、保育説明会を行う。

○F委員

保育は5人ですが、10人でもいいのでは。

○分館長 (谷戸)

応募が多ければ、ひばりが丘公民館と柳沢公民館の公民館保育員を調整して、対応できると思う。

○G委員

子どもを取り巻く環境について考える講座 (保育あり) SNS と子どもの関係性を考える (柳沢) は、3回の連続講座だが、講師の松田洋介氏は全部関わるのか。どちらかという社会関係学みたいな、社会的なアプローチをして、SNS に対して結構肯定的な感じがするが、実際どうなのか。

○事業係長

講師の松田先生には、1回目はメインで話していただき、2回目はファミリールールの事務局職員が主に話し、3回目はファシリテーターとして参加いただく予定。講師の考え方としては、SNS が唯一子どもの居場所になっている可能性もあり、ゲームでの繋がりや SNS に対して全面否定の立場ではない。塾や習い事などで忙しく、子どもだけで過ごす時間や場所が少なくなっている中で、親や大人の監視がない唯一の場所になっていることも多い。参加

者はそのようなことも知った上で、最終的には子どもとどう接していけばよいのかをみんなで考え合うことを一番の狙いとした。

○H委員

誰を対象としているのか分からない。小学校でもトラブルは、SNS、LINE が圧倒的に多い。家庭で対処できなくて、学校で見てほしい、間に入ってほしいなどの要望が多い。家庭でのルールが決まっていない、子どもに任せっきりの保護者が非常に多い。この子どもを取り巻く環境について考える講座（柳沢）に参加する保護者は、意識が高いと思う。困っている方を対象にするのか、主体的に活用するのかどうなのか。

○事業係長

担当者の問題意識として、実際に学校ではいろんなトラブルがあり、危機感を持っている。どんな対策をしたらよいのか、具体的な方法論については第2回で大きく取り上げる。

○H委員

事業概要の「SNS の利用実態を踏まえ心理的背景を理解したうえで、主体的に SNS を活用できる環境をつくる。」その「主体的に」というところは意味合いが違うのでは。

○事業係長

トラブルの内容や、なぜ使いたいのか使わざるを得ないのかといった心理的背景などを知り、SNS に振り回されず自分からコントロールして SNS を利用していくという意味合い。主体的というよりも「適切」という表現が正しいかもしれない。

○G委員

子どもを取り巻く環境について考える講座（柳沢）に違和感があるのは、1回目と2、3回目のレベル感が違う。1回目は教育の話、2、3回目は家庭でのルール作り、ルールのあり方などが主となっている。こうしたハウツーは、教育学者の講師を交えてやることなのか。それならばスマホの使い方講座でもよくて、なぜ子どもが SNS を使いたいと思うのか、そういう教育や社会のあり方そのものを3回目で議論すべきだと思う。ルールを検討して相手と共有し合うだけというのはもったいないと感じる。

○事業係長

3回目は、1回目と2回目の両側面を踏まえ、ルールを検討して共有するだけではなく、松田先生をファシリテーターとして、委員がおっしゃる内容にも触れていくことを想定している。改めて講師と内容や意識をすり合わせていきたい。ハウツーも得られるが、問題の根本を知ること、子どもとの関わり方自体を考えるような講座にしたい。

○C委員

SNS の問題は、大人が直面している子どもに関する問題だと思う。そこきっちり捉えて、子どもと一緒に考えていくような講座になるとよいのではないか。

○事業係長

対象年代はどのあたりなのかという事前質問について。今回は、小学校中学年から中学生ぐらいを対象とする。

○C委員

教養講座 木村草太さんと憲法を語ろう（谷戸）について、講師が自分ばかり話すことにならないかという心配がある。また、過去に公民館教養講座として青年を対象にした事業があったのか聞きたい。青年にも日本国憲法を議論してほしい趣旨や上の世代も下の世代も入れないという意図を説明してほしい。

○事業係長

青年対象として、教養講座をするのは珍しい。

○分館長（谷戸）

考えを語り合うことを主に目的としている。講師の話ばかりになることは想定していない。参加者が少なくても青年を対象としたい。

○C委員

15歳から30歳代限定の人たちについて、職員の勝手な思い込みでは駄目。青年を対象とする理由を聞きたい。また職員がやりたい根拠を知りたい。担当職員と講師の間で決めるのではなく、なぜこの世代にするのかをもう少し公民館で議論してほしい。

○事業係長

若者が今どんなことを考え、どんな結論になるのかという話を聞いている。動機について何を根拠にしているのかは、改めて担当職員に聞いて次回お示しする。

○分館長（谷戸）

谷戸まつりで長く関わってきた高校生・大学生と話す機会があり、この講座でそういう話を討論できたという意向を感じた。是非この子どもたちも参加してもらい、今の若い世代が何を考えて、この社会をどう見ているのかを私も直接聞きたい。

○C委員

私も含めて聞きたいのであれば、世代を限定してはダメなのではないか。

○事業係長

担当者の意図は改めて確認するが、講座に参加できない年代の方々へは、学習の成果として公民館だよりでフィードバックすることを考えている。

●令和8年度公民館主催事業報告について承認。

(3) 令和7年度第2回利用者懇談会報告について（資料5）

○C委員

公民館利用者懇談会がとても充実してきたと感じる。5～6年前から公民館事業について希望を取るのはいかがでしょうか、公運審でもアンケートを取ろうかと議論をしてきた。利用団体の参加も多いし、市民との交流もできている。各館がそうなっているのが素晴らしい。

(4) 令和8年度公民館「まちなか先生（学校出前講座）」について（資料6）

○分館長（保谷駅前）

令和8年度公民館「まちなか先生（学校出前講座）」の申込みが20校あった。昨年度に実施できなかった小・中学校10校を選択した。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

4月に谷戸公民館に冷水機を設置した。次に、今年度、芝久保公民館・谷戸公民館のエレベータ内に防災キャビネットの設置を予定している。また、保谷駅前公民館については、ステアビル管理組合にて予算計上をお願いしている。

(2) 公民館だより編集室会議報告

●担当委員から公民館だより編集室会議について報告

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

●担当委員から東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会について報告

2026年10月1日（木）と10月2日（金）の2日間、ウエスタ川越（埼玉県川越市）にて「第48回全国公民館研究集会・第65回関東甲信越静公民館研究大会埼玉大会」が開催される。関東エリアの公民館関係者が一堂に会し、地域課題の解決や活動の充実について議論が行われる。また、10月24日（土）に委員部会研修が実施される予定。狛江市のこまえみらいテラスで、中高生や若者の公民館活用をテーマにし、各市から事例がないかヒアリングしている状況。

(4) 東京都公民館連絡協議会定期総会報告

○公民館長

4月22日（水）東京都公民館連絡協議会（都公連）定期総会が国分寺市にて行われた。令和7年度決算報告、令和8年度予算、事業計画について説明があり承認された。西東京市は今年度、副会長市、館長部会の幹事市となる。都公連公民館研究大会は、今年度は開催しない。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 令和7年度公民館事業評価に当たって

○公民館長

事業評価のイメージを作成した。具体的な評価表の作成はできていない。ポイントは、公運審の答申の内容を踏まえた事業評価について継続し、公民館事業計画に記載されている5年間の事業方針、主催事業との整合を図り、誰が見ても分かりやすい評価としていきたい。そして、誰が見ても分かりやすい評価とするため、対象となる公民館事業の全体像（目的、内容、予算、実績、課題）が見えること、評価指標が適切であること、評価結果の理由が明確であること、の3点に留意して評価を進めていきたい。

目的・内容など公民館職員や公運審の委員だけでなく、市民が初見で見ても、わかることが大切だと思う。また、公運審定例会の会議の中で評価を実施したいと考えている。

評価指標については、客観的に分かりやすいのは、定量的な数値での評価だが、公民館事業はその数値で表せないところがあり定性的な評価にならざるを得ない部分もある。何を指標に評価するのか、あらかじめ示されていないと、分かりやすい評価とはならない。評価項目としては、事業計画に記載された公民館の主催事業の項目に沿った形で「学級・講座・催しなどの開催」「公民館保育室」「公民館市民企画事業」「公民館だよりの発行」「まちなか先生」についての評価を提案する。これに、長期的視点を加えて、「開かれた公民館」「問いかける公民館」「地域とともに」の全体的な取組を評価する考えで、評価シートも、それぞれの項目を評価するのに適した評価シートを作成し評価したい。また、長期的視点の評価はシートを作るというより、定例会で議論しその内容をコメントとして記載するイメージである。ほかに、ご意見等いただければ、再度検討し評価シートを作成していきたいと思う。

○D委員

誰が見ても分かりやすい評価はとてもいいと思う。予算とは？

○公民館長

公民館事業を実施するのにどのくらいの経費がかかっているのか、基礎的なデータとして掲載できたらと考える。費用対効果についても考える必要があると思う。

○D委員

達成すべき目標など数値で表すものとは違うのか。

○公民館長

数値だけで、A～C評価をするのは公民館の事業評価としてはそぐわないと考える。アンケートの満足度だけで、この講座は、A評価としてしまうと講座の実施目的が受講者にどれだけ伝わったかなど大事な部分が抜けてしまう。数値的な評価指標というよりは、定性的なアンケートを重要視していく。アンケート結果や受講者数、受講率などは、評価するための基礎資料という考えでいる。

○事業係長

何を評価指標にするのか、この審議会で話し合いたいと思っている。各項目について、どんな視点を持って実施することが大事なのか、共通認識を持ったうえで評価を行いたい。またこの事業評価は例年、評価する話し合いの過程で公民館の大事な部分がたくさん語られるので、どんな意見が出てどんな議論がされたかが分かる評価表になったらよいのではないかなと思う。

○F委員

社会教育機関の公民館の講座でどんな意味があるかも含めて話すことで、自分たちも学んで変わってきている部分もあり、市民がそれぞれの立場で議論をするのは貴重だと感じる。

1回は別日を設けて話すのが必要ではないかなと思う。1つ質問だが、長期的視点の1、2、3があるが、6年度の事業評価には基本方針でそれぞれ、この3項目並んでいて分かりやすい。これは基本的に生きているということか。

○公民館長

1つ1つに対して振り返る必要はないと思う。公民館の事業全体を総括として、そういう視点で取り組みされているか、5年間の中期的な方向性になっているので、公民館が違った

方向を向いていないかを皆さんに確認をして、指摘いただきたい。また、管理運営面であるとか窓口業務についても、3つの視点に基づいて、評価していただきたい。

○事業係長

今回は、1つ1つの項目の評価指標について話し合いを始め、評価表をどう作成するのかを話し合えたらと思う。この内容で了承いただければ、7月までの定例会で評価指標を話し合いできればと思う。

○I委員

効率的な話し合いが出来たらと思うので、定量的な数字的なもので比較出来たらいいと考える。

○G委員

指標というのは、職員が日常の業務でそこを狙いにしているもので、我々がここで議論するものではない。今までも時間を割いて議論してきたので、このペーパーを見ても職員が議論したとは思えない。公民館だよりの発行など、局所的になっている項目もある。広報とか周知の在り方ととらえ返さずに、長期の視点でそれをやりましょうということでは議論が足りない。単年度事業なのに長期的な視点を入れるのもわからない。講座はこういう視点が持たれているとか、こういうことを大切にしているとか、そういったことを話し合っ、評価指標を議論するのは、コンパクトにしてより楽にする議論ではなく、何のためにやっていて、どう使って、どう市民に周知し市民のものにしていくかっていう議論にすべきである。しかし、評価表の見直しになっていて、それは我々がやることではないし、公民館のあり方を考える方策になっていないと思う。フォーマット作りだったら、職員が提案してくれればいい。

○事業係長

複数の委員からいただいた意見を取り入れた形にしているという認識を持っている。

評価の作業を通して、委員も職員も公民館についてより深く知る機会となっていることが大きな意味の一つであり、みんなで議論しながら考えていきたいと思っている。

○G委員

この定例会で議論したことが反映されているかわからない。コメントに対してどう対応したのか、せめてコメント対応表をつけるとか、議論した結果、ここは採用しませんとか、採用したところなどの説明がほしい。評価の切り口、評価のプロセス、評価方法、見せ方と私は言っている。

○事業係長

評価の切り口という点で、評価指標をみんなで考えたいという提案をさせていただいた。評価のプロセス、評価方法という点では、事業の個票の扱い方を考え、先ほど申し上げた議論の過程を見える化することを念頭に考えたい。見せ方の点では、写真やチラシ等を入れてはどうかと考えている。評価項目については、事業計画の項目や基本方針に直接リンクするような評価であるべきと言う意見が多く、このような提案をさせていただいている。

○F委員

事業計画書の3つの基本方針それぞれに書かれている、もう少し具体的な「取組事業」を読み込むことも大事で、そことのリンクを考えていく中で、この方向性が出たと思う。

○C委員

どんな意見が出たのかも私は知らないし、共有されていない。行政評価の形を踏襲している気もする。何のために評価するのかを考えると、定例会でいろいろな議論がされてきた中で、各事業についてどう考えたらいいのかという部分が本当は大事なことで、次の事業計画に繋がっていくことだと思う。また利用者懇談会など市民参加の点ではどうなのかという視点も大事。新しい指標を立てることより、各館が昨年度行った事業についてどういう評価し、課題は何かを把握した上で、A・B・C評価よりは、よく出来たこと、進んだことなどが書かれていると確認しやすいと思う。

○公民館長

今回いただいたご意見については、共有し検討する。

(2) その他

なし

(3) 令和8年度第2回定例会について

日時：令和8年6月17日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 第一会議室